

## Ⅱ. ジョージメイソン大学リーダーシップ・地域参画促進センター

Center for Leadership & Community Engagement, George Mason University

### 1. サービスラーニングとソーシャルワーク

#### 1) 対人コミュニケーション実地研究 (Laboratory in Interpersonal Communication)

社会福祉学部では、4、5年前からサービスラーニングを取り入れている。この科目は3年生開講科目として最低60時間、ソーシャルワーク履修前の科目として位置付けられている。

前期にソーシャルワークで必要とされるインタビュー、傾聴スキルなどを学習し、後期に社会活動を通して、多様な異世代間のコミュニケーション等を学んでいる。

活動先は、センターに登録されている幼児から高齢者を対象とする様々な団体（75団体）の中から選択し、複数の団体で活動している。

3年生の時期に社会活動を経験することで、学生自身がソーシャルワーカーに向いているのか、自分で考える機会になり、教員もその適性を見極める機会ともなっている。

活動前には、リーダーシップ・地域参画促進センターがオリエンテーションを実施し、何か問題が起きた場合は、訪問または電話連絡で対応している。

#### 2) ソーシャルワーク実習とサービスラーニングの違い

ソーシャルワーク実習は450時間の専門的な体験を目的とした実習であり、受入先の指導担当者要件にはソーシャルワーク修士号を持っていることが要件とされる。

一方、サービスラーニングは平均100時間程度の活動時間であり、ソーシャルワーク以外の職業にも通じる社会活動をおこなう。

学生の受け入れにあたって、特に厳しい審査はなく希望する学生は基本的な事前学習ができていれば、活動先に受け入れてもらうことができる。

ソーシャルワーク実習は専門スキルの習得を目的とするのに対し、サービスラーニングは、社会を見つめる基本的な力や課題について理解を深め、広い意味で仕事をするための必要なものの見方や判断力を学ぶことが目的となる。

#### 3) 学生にとってのサービスラーニングの意義

学生にとってサービスラーニングでの経験は、若くて理想主義になりがちな自分を知り、現場で働く心構えを学生時代に身につけることができる。この経験は、その後のソーシャルワーク実習においても途中で挫折しない結果に結びつくことが多い。

また、サービスラーニングの重要な要素として振り返りの中で理論と実践をフィードバックする学習サイクルが、学問と貢献との相乗効果を生んでいる。

そこでの学びは、ソーシャルワーカーに欠かせない市民性を身につけるきっかけになり、それを基本にソーシャルワークの専門教育を積み上げることが、大変意義のあるカリキュラムとして考えられている。

#### 4) サービスラーニングにおける危機管理

活動の依頼にあたり、学生は感染防止のため予防接種の記録の提示と、救急救命訓練を受講している。予防接種や保険、事前学習のトレーニング費用は原則自己負担である。また、無犯罪証明書の提出が求められている。

#### 5) 活動先の団体 (Agency) の受入れるメリット

サービスラーニングの活動費は、基本的に謝金等の支払いはない。活動先団体の調整や職員研修等にかかる費用は大学が負担している。

学生を受入れるメリットとして、以下の4点があげられた。

- ① 新鮮なアイデアを学生がもたらしてくれる。
- ② 卒業後に就職してくれることがある。
- ③ 学生から新しい研究状況を聴くことができる。
- ④ 助成金を出願する際の協力を学生に要請することがある。

## 2. 体験学習とリーダーシップ・地域参画促進センター

### 1) 体験学習 (Experiential Learning)

体験学習においては、学んだ理論が実社会の中でどの程度通用するのかを考える機会となる。また、その事を通して学生本人が何をどのように考えてきたか、体験の振り返りが重要である。つまり、メタ認知（他者の視点にたった客観的な認識）を導く学習である。

学内には、コーオペ教育 (Cooperative Education) として、1学期期間中、1つのプロジェクトに従事する Co-ops 体験学習プログラムがある。

これ以外にも、フィールド研究センター (Field Study Center) では、自然科学系で主に行われるフィールド研究を、歴史や文化と照らし合わせた広がりのある体験学習の機会をつくっている。

#### (1) 体験学習プログラム

- ① インターンシップ：個人で非営利・民間・政府団体に出向く。
- ② セメスター：ある期間に1つに集中して取り組むプログラム。
- ③ 留学：例) ローマへ行き美術館を巡る学習ツアー等。
- ④ 他大学の講義履修し単位取得をする。

#### (2) テーマ領域

##### ① ソーシャルワークに関するテーマ

ソーシャルワーク実習がこのテーマであるが、社会福祉学部以外の学生たちも「性と暴力」や「HIV」、女性シェルターや HIV 患者について学習している。

## ②フィールドスタディ

広い意味での現場体験として、生物学系を対象にしたものが多い。今後はもっと幅広く歴史や哲学にも広げていこうとしている。

## ③アクションリサーチ

コミュニティニーズとはなにか、伝統的なリサーチとは違い、コミュニティとパートナーシップを結び調査する所から始まる。

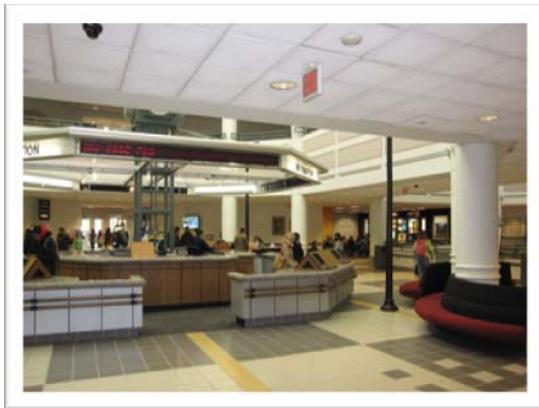
例えば、水質検査を行い異常があればその問題に対して、何をすることがコミュニティの役に立つかを学ぶ相互利益が重視される。

## 2) リーダーシップ・地域参画促進センター

### (Center for Leadership & Community Engagement)

ここでは、教員と地域団体の協働で行う地域協働型調査 (Community Based Action Research) プログラムを提供している。地域ニーズを把握して問題解決につなげるための調査を行い、調査結果は、地域にフィードバックする。この調査を行うにあたり様々なリーダーシップ開発の主専攻及び副専攻科目を設けている。

- ・ウェブサイトからボランティア情報の提供
- ・忙しい学生や社会人学生を対象としたボランティア活動体験
- ・長期休暇中の社会活動プログラム (Alternative Breaks)



(ジョージメイソン大学リーダーシップ  
・地域参画促進センターの入口)

#### 【説明者の紹介】

■ カレン・ミセンシク (Ms. Karen Misencik)  
体験学習担当部長 (写真上)

■ ミリアム・ラスキン教授  
(Prof. Miriam Raskin)  
社会福祉学部教授

### 3. サービスラーニング教育プログラム

#### 1) プログラムの概要

サービスラーニングは、学生の市民力を高め、社会をより良く変革するという学生の価値観を育む教育プログラムである。

このプログラム評価は、単なる活動時間のみが評価されるのではなく、学びを振り返り（reflection）り、その変化を評価する。学生の活動と学びのバランスを評価するためには、地域社会のニーズに対応するプログラムを行うことが大切である。

具体的には、学生の活動記録（タイムシート）を丁寧に読み返し、それを基に学生自身の評価（ポートフォリオ）を行う。このプログラムには、学生、教員、活動先である地域との連携、パートナーシップを大切にしながらプログラムを構築していかなければならない。

#### 2) 社会活動の事前準備

事前準備として、受入先と協働で学生の学習目標を達成するプログラムを準備する。

学生は、センターが作成している活動先団体リスト（事前説明会に参加して登録された団体）を提供し、希望する活動先を選択して必要な書類を提出する。次に、活動先に面接日を調整するため、電話連絡を行う。活動先の訪問では、学生自身の自己紹介などプレゼンテーションを行い、活動先と学生双方の活動内容の意図が合えば活動先が決定する。契約にあたっては、インターンやソーシャルワーク実習とは違うことを活動先に説明し理解を得ている。

このプロセスは学生にとって、約束通りに書類を提出する等、社会的責任等を学ぶ機会となっている。

教員には、サービスラーニングを導入するためのガイドラインを提供し、教員やセンターは、学生をどこの団体に配置するのかを見極めることが重要である。

#### 3) サービスラーニング理論、リーダーシップの諸コースについて

- ①リーダーシップ開発（主専攻・副専攻で開講）を目的としたコース
- ②リーダーシップとは、文化や性別、時間軸などの影響を受けて形作られるものであることを学ぶコース
- ③オルタナティブ・ブレイク：休暇時期に必要とされている活動を行うコース。  
例えば、家の建設、HIV患者のケア、ハリケーンの被害地訪問、環境調査、病院で老人のケアなどを行う。
- ④短期間ボランティアコース：最近では社会人学生が増え短期間のコースが増えている。

#### 4) 本センターが考えるサービスラーニングモデル

優れたサービスラーニングとは、社会活動を展開する中で「学生が何を学んだのかということ」を表現できることである。

次に「コミュニティの問題を見極めることができる」、「リフレクションができる能力を開発すること」この3つが含まれる。

教員はこのプロセスにおいて、学生の潜在的な価値観を高めることができ、学生が市民として何を行うか、そのモチベーションをあげることができるよう努めなければならない。

サービラーニングは、特定の職業のための人間形成教育や能力開発ではない、市民性を育むプログラムであり、何を学んだのか、「学生と教員の双方向のフィードバックが大事」である。

市民性を育むという意味でサービラーニングプログラムは、地域ニーズが時間の経過と共に変化するように、その内容も変化していくものである。

#### 【説明者の紹介】

■ヘザー・ヘア (Ms. Heather Hare)

リーダーシップ・地域参画促進センター副所長

センター勤務 10年.



## 4. サービスラーニング担当教員からの報告

### 【説明者の紹介】

#### ■リサ・グリーンペンブル准教授

(Prof. Lisa Gring-Pemble)

新世紀学部准教授。本大学に勤続9年

#### ■アンドリュー・ウィンフィールド准教授

(Prof. Andrew Wingfield)

新世紀学部准教授



(左から、グリーンペンブル氏、ウィンフィールド氏)

### 1) リサ・グリーンペンブル准教授

#### (1) サービスラーニングを取り入れた科目

『暴力と性』『社会運動と地域活動』『政治キャンペーン』の3科目。

#### (2) サービスラーニングの位置づけ

授業内容は、必ずサービスラーニングと連結するようにしている。活動先の意図と学生の目標を一致させるための合意書を作り、この合意書は学生本人の責任を明確にするためでもある。

教員は、学生一人ひとりが体験する社会活動と学習目標を結びつけるために、課題図書による学習を組み立てている。

活動先理解を深める学習として、活動先の状況を伝えるプレスリリースをグループワークの課題として出している。

サービスラーニングに関わる教員、地域関係者、リーダーシップ・地域参画促進センターのコーディネーター、活動先の担当者は、学生がお互いに教え合うピアティーチングとして関わっている。また、教員は担当クラス以外の学生のピアティーチングも行っている。

プロジェクトの進行段階に応じて、学生同士の小論文による振り返り、グループワークによる発表を通じて、学生同士が相互に評価しあえるよう授業を進めている。

この講義の最後には、必ず活動先団体を招いて報告会を開催し、学習の成果を共有している。

#### (3) 活動先の選択

学生には予めこのコースで学ぶことを文書等で伝え、授業前から学生には問題意識を持たせている。活動先を選定する段階では、既に自分が何をしたいのか分かっている学生もいれば、スケジュールや交通機関等の目的に沿う受入れ先が見つからない学生もいる。

活動先選択にあたっては、リーダーシップ・地域参画促進センターに相談して、活動先をリストアップしてもらい、学習目標と照らし合わせ自分で候補先を3つ選択する。最終的な活動先は、教員と面接の上で1つに絞る。

活動先を選ぶプロセスは、評価ポイント 25 ポイントを与えることにより、活動先の選択の重要性を学生に示している。

## 2) アンドリュー・ウィンフィールド准教授

(1) サービスラーニングを取り入れた科目

『環境保護研究』『持続可能な世界（環境に優しい大学経営のあり方を考える）』の 2 科目

(2) 活動先の選択

学生には、第 1 回目の授業前にメールで活動先リストを紹介し、このリストの中から活動先を 3 つ選択する。授業開始前に学生は活動先を選択した理由など自分の考えを質問票に記入し、教員はそれを基に面接をおこない活動先を決める。

(3) 活動先と大学の連絡調整

前期授業が始まる 4、5 週間前（8 月）に、リーダーシップ・地域参画促進センターが全ての活動先に対してオリエンテーションを行っている。

(4) 評価

社会活動と関連した課題図書からの学び、授業日誌、記入票、論文などを相互評価している。

## 5. サービスラーニングを経験した学生へのヒアリング

### 【ヒアリング学生の紹介】



■ウィットニー・ゲッカー (Ms. Whitney Gecker) (写真：右)  
教科「暴力と性」を履修してサービスラーニングを行った学生.

■ジャスティン・フォガタ (Mr. Justin Fogata) (写真：中央)  
2年生からサービスラーニングを受講している。長期休暇中の社会活動プログラムに参加し、アフリカで HIV 患者に出会う経験をした。

■アレックス・グデュール (Mr. Alex Gudich-Yulle) (写真：左)  
ビジネスと非営利団体に関係づけることに興味があり、非営利団体に資金や物資を提供するコミュニティ財団で活動している学生。オンラインでのソーシャルネットワークワーキングに興味があり、友人とオンラインに関するボランティアにも取り組んでいる。  
サービスラーニングは、トップダウンではなくボトムアップで行なうことが大事。学生は、教員のためにはしないことでも、自分の仲間のためになら行うことも多いので、大学側にはそのことを大事にして欲しい。

### Q1. 活動の振り返りをどのように行っているか.

- Ms. Whitney : みんなが話しやすい楽しい雰囲気をつくるファシリテーションが難しかった。  
リフレクションを楽しいものにできるような努力や、参加している学生にとって自分自身がどのような立場にいるのかを理解するよう努力した。
- Mr. Justin : 「振り返り」と構えてしまうとメンバーが義務的な姿勢になってしまうので、「ファミリータイム」と称して行った。  
食事や休憩の時に、何気ない会話の中でも振り返りを行うようにした。  
また、自分への手紙を書いてもらうことで自分の心の中に向けた語りかけも大切だと思う。  
いろんな方法で振り返ることが重要だと思う。例えば、私と私のリーダー

が考えたアイデアで、みんなに紙を配り、その紙に一文字と絵を描いてくださいということをお願いした。みんなのものを合わせると、最終的には素晴らしいものが完成し、それぞれの学生が学んだことや考えた事がとてもよく伝わった。

Ms. Whitney : 授業の中では、記録で表現したりグループワークなどを組み合わせて振り返りを行ったが、情緒的な学習と知的な学習の両方を確認して評価することが大切だと思う。

## Q2. サービスラーニングの意義について

Mr. Alex : 大学で学ぶ理論と地域での実践が結びついたことがとても良かったと考えている。クラスで理論を学び、サービスラーニングで実際に目の当たりにすることはとても良かった。

例えば、実際のホームレスの姿をみてその解決策を考えていくとなると、それがとても難しいものであることに気付いた。

今は、ニーズは高まっているのに不況の中で資金難になっている多くの非営利団体のために、寄付を募り配分する組織のアドバイザー委員会のメンバーになっている。

## Q3. 活動中の課題について

Ms. Whitney : やり甲斐のある活動先を探すのに、たくさんの団体に電話をするなど苦労をした。

Mr. Justin : テキサス州ダレス市の難民支援団体に活動した。資金不足の団体に受入の体制も整っていなかったけれど、学生の希望をよく聞いてくれ、学生に創造的な活動をさせてくれるなど柔軟性があった。

一方、フィラデルフィア市のシティ・イヤーという団体に活動したときは、受入の体制は整っていたが、活動内容は全て決められ与えられた活動をただ黙々と行った。活動先に合わせて活動するのが課題だった。

## 6. 活動先へのヒアリング

### 【ヒアリング対象者の紹介】

#### ■サマンサ・ワトソン (Ms. Samantha Watson)

ボランティア・フェアファックス (ボランティアセンター)  
スタッフ

ジョージメイソン大学卒業生/サービスラーニング経験者



#### ■エミリー・ダルカンプ (Ms. Emily Dahlkamp)

レストン・インターフェイス (ホームレス支援団体) スタッフ

ジョージメイソン大学卒業生/サービスラーニング経験者

### Q1. サービスラーニングの活動先に求められること.

Ms. Samantha : 社会活動において学びの価値を伝えること. 学生が何を学びたいのか, どのような希望を持っているのかを理解することが求められる.

Ms. Emily : 学生の個性に柔軟に対応する姿勢. 学生の学習方法は様々であり, 必ずしも, サービスラーニングが最適な方法ではない学生もいる.  
その時の対応をきちんと行うことが必要. 柔軟な対応が活動先には求められる.

### Q2. 現在の就職先は学生時代に体験したボランティア先であったか.

Ms. Samantha : 受け入れ先団体に勤めている. 4年生の最初に非営利団体コースを受講し, その後インターンシップを経験し就職した.

Ms. Emily : 受け入れ先ではなかったが, 大学時代に話を聞いて就職した.  
大学には学生のためのキャリアセンターはあるが, コミュニティ団体からの求人は私の方にもくるので, それを学生に伝えることをしている.

### Q3. 学部で勉強したことと今の就職先とは関係性は.

Ms. Samantha : 組織運営が専門だったので直接関係はないが, 非営利団体にも興味があった.

Ms. Emily : 専門がコミュニティサービスで専攻が非営利団体だった. 今の職場に活かされている.

### Q4. 今の学生に最も必要なことは.

Ms. Samantha : 学生時代から実社会に出てみるのが大事. 何事もやってみなければ分からないので, 教室外で学んだことが社会に出てからとても役に立っている.

Ms. Emily : 今の学生は多様化社会で生きている. 様々な異なった価値観のなかで, 自分の価値観もしっかり持ちながら学生生活を過ごすことが大事.